

令和4年度 第2回 愛宕小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和4年6月27日（月）9：30～11：30

2 場 所 愛宕小学校 本館2階 会議室

3 あいさつ

○委員長

立っているだけで暑い日になっている。先週の登校の見守りの時、マスクを外している子が2割ほどであった。熱中症とコロナ感染との対策のバランスが難しい。

今日の登校時は、暑さからか児童の挨拶が少なかった。声をかけても横向きや下向きで、挨拶が返ってこない時があった。挨拶の大切さを、子どもたちの発達段階に応じて繰り返し説いてやるとともに、子どもたち一人ひとりの生活背景についても理解していきたいと思う。私自身の子どもの見方・考え方等も、子どもとふれ合うことで変わってきた。

○校長

新型コロナウイルス感染が県内でも徐々に増加傾向であるため、本校に流行の波がいつ来てもおかしくないと感じている。マスクの着用について、外では距離をとれば外すよう指導している。室内では、感染リスクに応じてマスク着用を促している。

この時期の体育は、例年であればプールで水泳学習を行っているため、体育を行うことができた。しかし、今年度は市全体でプールは中止となっている。この猛暑の中で運動場や体育館で体育の授業を行うことは、熱中症の危険が伴う。状況を見て無理のない範囲で行うことにしている。

新学年がスタートして2か月半が過ぎた。その間に、学校教育での「個別最適化」について考えさせられることがいくつかあった。

1つは、給食の食材の好き嫌いや食べる量についてである。本校では、給食は個に応じて無理のない範囲で食べるよう指導しており、一律に同じ量を食べさせる指導はしていない。具体的には、箸をつける前に、食べられる量に自分で調整し、その量を残さず食べきるよう指導している。コロナ禍のため、今は、オタマやトングを多数で触らないよう、担任が量の調整を行っているが、ある児童が量の調整を担任にしてもらった際、もっと減らしてほしいと思っていたが遠慮から申し出ることができなかった。そのため、無理して食べなければならない状況になっていたことを、保護者の訴えから知ったことがあった。子どもたちや保護者が、思いや考えを遠慮なく担任や学校へ伝えられる関係づくりに努めていかなければならない。

2つは、宿題の間違ったところを休み時間に直させたことで、休み時間が減ってしまい、その子にとっての学校生活の楽しさが減ってしまったというものである。保護者からの「子どもも休む時間は必要であり、遊びたいと思っている。宿題の直しは家庭でさせるので、休み時間は休ませてほしい。」という要望に応じたことで、子どもの不満が解消された。一方で、別の保護者からは、学校で直しをさせてほしいという要望もいただく。

これからも、このように様々なケースが出てくると思われるが、児童一人ひとりの違いを大切に、個別最適な支援をできる限り進めていきたい。

4 協議内容

(1) 学校関係者評価書について

○委員

登校の見守りで交差点に立っている。子どもたちは挨拶してくれる。たまに、忘れ物を取りに家へ戻ろうとする子がいる。

先日、うつむいて泣いている子がいた。心配で私が声をかけようと思ったとき、近くにいた5・6年生の女の子たちが泣いている子に駆け寄って「どうしたの。」とすぐに声をかけた。「(いっしょにいた子に) どうも帰れと言われたみたい。」と話してくれた子もいた。あとから来る子が次々に声をかけていた。たくさんの子が集まってきて、みんなが泣いている子を心配してくれた。愛宕の子どもたちは、いじめがあったら注意してくれる子がいる。上の子たちが困っている子、泣いている子に自然と関わっている。いじめをほっておかないことが根付いている。

また、思っていることを声に出して言える子もいる。3年生の町探検にボランティアとして付き添ったとき、「(〇〇さんのことを) 知っているよ。だって、1年生の時の帰りに、〇〇さんに送ってもらったから。」と話してくれた。このように直接話してもらえると、ボランティア活動をしている者として、とても嬉しかった。

○校長

困っている子や泣いている子がいたとき、地域の方に声かけして頂いていることが大きい。登下校中のトラブルで、このように関われる高学年の子たちの姿は、地域の方から学ばせてもらった成果でもある。子ども同士が、同学年だけでなく異学年でもつながれるような取組を進めていきたい。

○委員

先日、サル出役の情報をマチコミメールで連絡もらった。しかし、その後どうなったかがわからなかった。現在、どのような状況なのか教えてほしい。

○校長

サルについては、はぐれザルが北から移動して海沿いに南下していったようである。続報を出さなかったことで、心配をおかけした。今後は、「その後」についても、メールで発信をしていきたい。

○委員

連れ去りを予告する不審メールへの対応については、万が一のことがあってはいけないので、今回のような対応をとることでよかったと考える。

○校長

市への不審メールに関しては、全国的に誘拐の予告が発信されていたようである。

市教委の方針に則り、他校とも連絡を取り合いながら対応した。皆様にも情報を発信し、ご協力を頂いたことで事なきを得た。感謝申し上げますとともに、引き続きご協力をお願いしたい。

○校長

関係者評価において、安心安全に関わる項目について追記した。保護者のニーズは時代とともに多様化している。それに応えるため、学校全体が組織として対応することが必要だと考えている。学校の安全安心に係る職員研修を充実させていきたい。

ホームページの更新について、今年度始めはコロナ禍への対応に追われ、十分な更新ができなかった。今後、週1回程度は更新できるように努めていきたい。

教員の資質向上については、本年度から社会科を中心に据えた授業研究に取り組んでいる。「主体的・対話的で深い学び」の中で、児童が地域との関わりを実感し、社会の一員としての自覚を深めていけるようにしていきたい。また、県の教育研究の推進を担う三重大学教育学部附属小学校の研修にも積極的に参加して、授業の進め方や学習集団づくりについて学び、本校の授業に反映させていきたい。

(2) 学校支援ボランティアの運営について

○教頭

新型コロナウイルス感染症拡大のため、ボランティア活動の再開が遅れたが、5月15日に学校支援ボランティア打ち合わせ会を行い、本年度の活動をスタートできた。校区探検に付き添われたボランティアさんからは、「子どもたちから元気をもらっている。」と喜びの声をいただいた。また、読み聞かせも本格的に再開した。久しぶりの読み聞かせに子どもたちは大変喜んでおり、楽しみにしている。読み聞かせボランティアの皆様も喜ばれている。環境整備においても大変助けていただいている。これからもご支援をお願いしたい。

○校長

先日、コミュニティスクール研修会があった。学校が地域に支援をお願いするのでなく、地域と学校が協働で子育てに取り組み、次世代を担う子どもたちを育成していくコミュニティスクールへとステップアップする時期だという話があった。

愛宕地区では、既に地域の皆様が自主的に活動を行い、地域の子育てに主体的に取り組んでくださっている。

例えば、今年度、愛宕地区づくり協議会福祉部会様が中心となって「子ども食堂」が開設された。青少年育成部会様は、地域行事「あたごの灯り」に、子どもたちが「あたごっちボランティア」として参画し、運営を担えるよう支えてくださっている。また、いじめ防止のために人権標語の取組も続けてくださっている。環境安全防災部会様は、海岸清掃を通して、環境教育、郷土を愛する子どもたちの育成に取り組んでくださっている。さらに、学校の環境整備や津波避難訓練にもご協力いただいている。公民館様には、「なかよし教室」で、子どもたちの学びの場を設定していただいている。また、「ライブイン愛宕」において、全校児童の合唱発表の場を設けていただいた。民生委員児童委員様には、毎月の「挨拶運動」、PTAの皆様には、児童引き渡し訓練、交通安全教室の応援等、一学期も学校教育をたくさん助けていただいている。学校支援ボランティアさんには、様々な教育活動をお支えいただいている。今年度は、さらに、月曜・水曜の放課後、「宿題支援教室」を再開していただき、家で宿題を助けてもらうことが困難な子どもが宿題支援をしていただいている。教室の中では、高学年児童が低学年児童にアド

バイスし、子どもたち同士で支え合う姿も見られる。

まだまだ挙げればきりが無いが、本当にたくさんの地域の皆様とのご縁と関わりの中で、愛宕地区の子どもたちは育てていただいている。今後も、益々の発展を願うところである。

(質疑応答と意見)

○委員長

学校運営協議会や地域づくり協議会が、学校と地域とのつながりをどう作っていくかが重要である。「学校支援ボランティア活動に参加を」と誘うと、地域の方がひかれてしまうことがある。「ちょこっとだけ手伝って。」と声をかけて、少しずつ地域に広げていきたい。

一方で、学校側の発信がないと進めない側面もあるので、学校運営協議会等に学校と地域とをつなぐ事務局的な仕組みが必要だと感じる。それにより、今後とも地域による子育てを継続・発展できるのではないかな。

学校が開かれると、学校も地域も賑やかになる。取組をしっかりと進めていきたい。

(3) 学校における危機管理について

○校長

愛宕小学校では、別紙の通り「危機管理マニュアル」を作成しているが、更に改定を進めているところである。

先日、尼崎市で市民の情報が入ったUSBメモリを紛失するという事案があった。鈴鹿市ではUSBメモリを使用していない。データは、クラウド上に保存しており、外部からの侵入を防ぐセキュリティ性も高い。教職員一人一人に端末が配当され、共用しなくてもよくなった。端末にログインする際は、顔認証等、何重もの認証が必要となっている。PTAとは、データのやり取りをメールで行っている。届いたデータは市のセキュリティシステムで無害化される。これら情報管理については、校内で徹底されているが、危機管理マニュアルには記載が不十分である。次の改訂で明記したい。

いじめ防止については、何より未然防止が大切だと考えている。子どもたちには、相手の立場になって考えられる人になってほしい。週1回の道徳科の授業や人権ポスターの制作等を通して、いじめの未然防止について全校で児童に考えさせている。地域づくり協議会青少年育成部会様の人権標語の取組も、大きな役割を果たしていただいている。

(質疑応答と意見)

○委員

いじめとは、どんな状況と捉えているのか。1対1はいじめではないか。

○教頭

数でもなく、いじめをした側の考えでもなく、受けた側が「いじめをされた。」と感じたら、全ていじめであると考えている。

○委員長

いじめについては、子どもたちの様子にほんの少しでも変化があったら、すぐに対応してほしい。

○校長

情報を素早く学校全体で共有し即対応できるよう、全教職員で確認している。

○委員

最初は1対1かもしれない。でも、一方の子が「(相手の子を)無視しなよ。」等と誘い入れていくことで集団になる。「無視しなよ。」と言われた子が、その行為をやめるよう言えることが大切だ。何がきっかけでなるのか、ボス的な子が存在するのか。誰か一人でも勇気があればいい。でも、(言うことが)怖いという気持ちもわかる。

○校長

例えば、一人の児童がある子に対して「気に入らない」ということから、噂を広げていくことで、いじめが広がるというケースもある。まわりの子たちが、「おかしいよね。」「ダメだよね。」と言える教育を進めていきたい。つらい思いをしている子を一人にしてはいけない。

○委員

(先程の委員の話の中であったように)一人の子が泣いていたら、みんなが駆け寄っていく。地域や先生へすぐに伝える。高学年の子たちの声かけは、大きいと思う。

○校長

子どもたちの中には、いじめているという認識がなく、気づいていない子がいる。相手もしてくるからと言う子もいる。辛い思いをしている子の立場に寄り添い、止めようとする周りの子たちの存在が大切である。

(4) P T A奉仕作業について

○校長

8月27日(土)に行われる予定である。(コロナ禍のため)昨年度は一部保護者のみの参加であった。今年度は、分散型で全員が参加できるように計画中である。奉仕作業に先立ち、8月21日(日)に原永地区のナイスミドルの会の方々に、刈払機での除草作業を依頼している。

(質疑応答と意見)

○委員長

学校運営協議会や自治会長等も8月27日(土)に参加しようと思う。

○委員

学校にある刈払機の修理できたか。

○長谷川校長

P T A予算で、2台の刈払機を修理し、1台は修理不能だったため新しいものを購入した。現在、3台が可動となっている。

○委員

P T A父親部も、遊具等のペンキ塗りを行う予定である。

(5) 運動会について

○校長

新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、10月1日(土)午前の半日で開催する予定である。今年は、子どもたちが他学年の演技を直に見られるようにしたいと考えている。熱中症対策については、業者にテント設営を依頼すると、児童一人当たり1,000

円以上の金額がかかり、半日だけの使用に見合う負担ではないと考える。例えば、団体演技を初めに行って全校児童で観覧し、その後、児童はエアコンをつけた教室に入り、徒競走は学年毎に外に出て行うことも考えられる。

(質疑応答と意見)

○委員

暑さを考えると、主に教室で映像を使って観覧する方がいいかもしれない。

○校長

近隣校とも相談して計画を立てていきたい。ライブ配信も高額(約15万円)なため難しい。7月末までには、学校で実施案を決定したい。

○委員

10月1日(土)は決定か。例えば、涼しい時期に変更することは可能か。

○校長

既に保護者に周知し、予定を組んでもらっているので、本年度の変更は考えていない。

(6) その他

○委員

不審メール時の下校に際して、授業を切り上げ全学年で一斉下校させることや、引き渡しを行うことなどの考えはあったか。

○校長

今回は、授業数の変更等はしないという市の判断があった。安全のため、学校や道中まで迎えに来ていただいた保護者の方が多数いた。また、登下校安全安心ボランティアさんをはじめ、地域の方々がたくさん協力に来てくださったので、とても心強かった。地域の温かさ、子どもたちへの愛情を強く感じた。心より感謝申し上げたい。